

# 令和元年度 第1回桑名市総合教育会議 議事録

1. 日 時 令和元年5月28日(火)  
開会 13時30分 閉会 15時05分

2. 開催場所 桑名市役所3階第2会議室

## 3. 出席構成員

桑名市長 伊藤 徳宇  
桑名市教育委員会  
教育長 近藤 久郎  
委員 松岡 守  
委員 稲垣 陽子  
委員 佐藤 強  
委員 松香 洋子  
委員 安藤 智里

## 4. 構成員以外の出席者

(総務部)

総務部長	松岡 孝幸
総務部次長兼総務課長	金子 洋三
総務課長補佐兼総務係長	水谷 圭司

(教育委員会事務局)

教育部長	後藤 政志
教育監兼学校支援課長	高木 達成
教育総務課長	山下 範昭
人権教育課長	矢野 道代
教育委員会政策監	梅山 靖洋
学校支援課主幹(小中一貫教育担当)	尾関 一夫
教育総務課長補佐兼管理係長	丹川 健吾

(産業振興部)

観光文化課長	清水 高幸
--------	-------

(市民環境部地域コミュニティ局)

生涯学習・スポーツ課長	糸見 智博
-------------	-------

5. 議 題 (1) 桑名市教育大綱(案)について  
(2) その他

**【総務部長】**

皆様、こんにちは。総務部長の松岡でございます。よろしくお願いいたします。

会議に入ります前に、本日の会議の公開についてお諮りします。本日の会議では、非公開とすべき案件の予定はございません。傍聴希望者がいらっしゃると思いますので、傍聴人の入室をご了解いただきたいと思いますと思いますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

**【総務部長】**

ありがとうございます。

それでは、入室をしていただきますので、少々お待ちください。

(傍聴者入室)

**【総務部長】**

それでは、ただいまから、令和元年度第1回桑名市総合教育会議を開催いたします。

本日は、全員の委員の皆様、ご出席でございます。

本日の会議では、桑名市教育大綱(案)について、ご協議いただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

ここからは、市長に会議の進行をお願いしたいと思います。

それでは、市長、よろしくお願いいたします。

**【市長】**

改めまして、皆様、こんにちは。

今日は、第1回の総合教育会議ということでお集まりいただきまして、ありがとうございます。

座って進行を進めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

本日の議題ですけれども、まずは事項の1、桑名市教育大綱(案)についてを議題といたします。

では、前回の会議におきまして、基本理念等についてご意見を頂戴いたしましたので、まず、基本理念に関して、事務局から説明をお願いいたします。

**【教育監兼学校支援課長】**

学校支援課長の高木でございます。

それでは、ご説明をさせていただきます。では、座って失礼をいたします。

お手元の資料のほうをご覧くださいと思います。

資料のところでは、桑名市教育大綱の基本理念、「夢を持ち その夢に向かって努力する子を育てます」ということで、その、まず基本理念の解釈ということで、説明をさせていただきます。

まず、「夢を持ち」というところですが、これは自分なりに、子どもたちが将来を、未来といってもいいかと思いますが、それを見据えて、希望や願望を持つことということで、これは実際には子どもたちによって、さまざまな夢の形があるかと思いますが、具体的な職業を夢見る子どももいるかもしれません。それから、なりたい人間像、例えば、ここでは心の広い人間になりたいとか、人の役に立つ人間になりたいとか、そういう人間像として、夢をイメージする子どももいるかと思いますが、それから、もう少し広い視点として、社会貢献という面から、人類が直面する課題を解決していくためにはどうしたらいいか、例えば環境問題をどうしようかとか、貧困の問題をどうしようかとか、そういったことについての夢を見る子どももいるかもしれません。

そういった中で、では、「その夢に向かって努力する子を育てます」というところでございますけれども、これはやはり今何をすべきかを知り、今努力し、今を充実させていこうとする子を育てることというふうに考えました。子どもたちがどんな力をつけていくべきか、何ができるのかを考えて、その考えに基づいて、粘り強い努力をしていくと。当然指導する側の教員たちは、子どもがそのような夢を実現するための力を引き出すために、その方法やその技術、考え方について学び続けて、実践に生かしていかなければならないということになります。

その次として、子どもが夢を持つ状況をつくるということで、夢というのは、子どもたちに夢を持ち

なさいといっても、こんな夢があるんだよ、この夢でも持ったらどうですかなんていうものでもないかと思えます。夢というのは、子どもたち自身がつかむものであり、子どもたちが主体的に持ってもらうなければいけないものかと考えております。

そのためには、我々ができることは、夢を持つような環境をつくっていく。もっと違う視点で考えていけば、子どもたちの夢を潰すようなことは絶対してはいけないということにはなるかと思えます。日常生活では、人や社会、自然の働きに触れて、やっぱり素朴な感動を体験するような場をつくっていく必要があると思えます。

それから、周りの大人が夢のすばらしさを認めていくこと。そんなもの、かなうわけないだろうなんて言ってしまったら、当然子どもたちはもう夢を見ることはやめてしまうわけですから、子どもが持った夢に対して、我々がやっぱりそれはすばらしいことだねとしっかり認めていくことが必要かということでございます。

それから、目標に向かって、子ども自身が体験を通して学習する過程に対して、やっぱり大人が温かい支援、効果的な支援を行っていく必要があるかと思えます。

実際の事業という点で見ますと、まずはやっぱり子どもたちが学びたいという学習意欲をしっかりかき立てていくことと、それから、適切で多様な課題解決の機会を提供すると。こちらから答えを言うのではなくて、子ども自身がほかの子どもたちと、ああでもない、こうでもない、自分の考えを出したり、ほかの子の考えを聞いたりしながら、自分の考えを広げたり、深めたりするような、そのような機会を積極的に提供する必要があると思えます。

それから、子どもの課題解決に向けての取り組み時間、これを適切に保障した上で、評価、支援をしていかななくてはならないということでございます。ほとんど先生がしゃべってしまう授業では、子どもたちが考える時間もない。それでは、やっぱり子どもの主体性や夢を実現する力は育たないというふうに考えます。

それから、失敗や間違いこそが大切にされる授業の創造。子どもたちは当然さまざまな場面で間違えたり、失敗もするわけですが、そこに気づいて、それをどう次に生かすのかというところが、一番大事なことになるかと思えます。もっと言えば、失敗や間違いというのは、諦めずに続けていけば、成功に至るまでの1つのポイントにすぎないのであって、最終的に失敗や間違いというものはないんだよというぐらいの考えで子どもたちに思ってもらうのが大事なかなというふうに考えております。

1枚めくっていただきまして、夢を持ち、夢を実現するために必要な資質、能力というところがございます。

では、そういった実現していくための資質、能力というのは、どういった部分が考えられるかということですが、1つは、複雑で変化の激しい社会、一層多様性が高まる社会と。子どもたちがこれから生きていく時代というのは、ほんとうに10年先どうなっているかわからない。文部科学省が、新学習指導要領を考える際も、もう10年先は具体的にどうなっているかわからないから、こんな社会に合わせて、こんな学力を身につけましょうというような発想では無理ですと、そこで、はっきり言い切っているわけです。

では、その中では、どんな力が必要かといえば、先のわからない未知の状況でも何とかしていける、何とか生き延びていけるような力が要るんですよ。そのためには、自立と協働と、それから創造という力が必要ですよというようなことを述べております。

国の動きとして、そのあたりについて、徐々に国のほうも形にして進めているわけですが、この表にありますように、生きる力でありますとか、学力の3要素、それから、生きる力を構成する具体的な資質、能力ということで、年を追って、次第に具体化をしていっているようなところでございます。

その中で、平成30年の第3期教育振興基本計画では、「夢と志を持ち、可能性に挑戦するために必要となる力」ということで、先に、我々がこれまでに掲げておいた教育大綱の内容と非常によく似た物の言い方をしております。

国際的には、OECDのキー・コンピテンシーという、最も大切となる能力ということで、3点挙げ

ておりますけれども、このあたりについては、日本のこれまでの積み上げてきたものも非常に大きな評価とともに影響を及ぼしております。逆に、このOECDの検討されたことが、こちらの国のほうの学習指導要領等の改訂の際にも生かされているということで、相互に影響を及ぼし合って、つくられております。

このあたりについては、アメリカ、オーストラリア等々、21世紀型スキルでありますとか、汎用性能力という言い方で、非常に似たような考え方で、これからの教育について、その必要性を示しているところでございます。

もう一枚めくっていただきまして、第3期教育振興基本計画とか、OECDとは、ということで、若干その部分についての解説も参考資料として載せさせていただきました。

もう一枚めくっていただきまして、次、全国学力・学習状況調査で、子どもたちがアンケートに答えてくれております。その中で見えてきた桑名の子どもたちの強みと弱みについて、特に今回の議題に関係ありそうな部分について抽出して、分析をしてみました。

まず、子どもたちが答えてくれた中で国や県の数値を上回っている部分というと、全体的に見ると、その中で言えることは、比較的桑名の子どもたちは教員たちとの関係性はよい傾向にあるなど。それから、学校に対して拒絶感が少ないと。比較的学校に行くのは楽しいと言ってくれる子どもたちの割合が全国や県に比べて高いという傾向があります。

その部分については、先生を慕ってくれて、学校に行くのが楽しいと言ってくれる子が多いわけですから、教える側の学校にとっては大変ありがたいことなんですけれども、逆に弱みという点で見ますと、比較的弱いのが、今学んでいることが地域や社会の課題や出来事とつながっているという実感が少ないのではないかと。自分の将来に結びついているという実感が少ないのではないかと。それから、自分の発想や意欲をもとにした学習の楽しさを味わう機会が不足しているのではないかと。受け身で学習している子どもが多いのではないかと。これは一概に言えるわけではないのかもしれませんが、桑名の子どもたち、塾に行っている子が大変多いということでもありますとか、どうしても点数とか、見える部分で学習というのを捉えがちであるということも若干関係しているのかもしれませんが。

その中で、弱みを強みに変えていくためにということで、我々が考えていかなければいけない部分につきましては、やはり子どもたちが主体的に学んでいく協働学習型の授業が主になるようにしていくことが必要になるんだろうなど。言ってみれば、教師が知識や何かをインプットと、与えて、覚えなさいと入れ込んでいくような発想から、アウトプット、子どもが自分の考えを出し、お互いに出された考えを自分のものとして受け入れて、深めていくというような授業、それから、子どもの社会的自立という部分を見据えた授業ということを考えていかなければならないだろうということでございます。

もう一枚めくっていただきまして、その中で、今回、案として出させていただいております教育大綱の8つの基本方針でございますけれども、この対照表みたいな形でお示しをさせていただきました。これまで現行では、基本方針1としては、確かな学力の定着と向上ということで、主体的、対話的で深い学びの実現に向けた授業を積み重ね、改善していくことというところがありましたけれども、そのあたりについて、もう少し突っ込んだ形で、1つは、やればできる、失敗しても大丈夫というようなことが体感できるとか、それから教授、ティーチングから、学習、ラーニングへと。それから、子ども自身が自分の学びを振り返る機会を積極的につくるということで、子どもが自分で学んでいるという意識を持たせていくと。そういったことで、子どもの自立の機会を妨げない。一から十まで教師が答えを言うてしまうようなことは絶対してはならないというようなものについても示させていただきました。

それから、基本方針2として、豊かな心と健やかな体の育成につきましては、それをそれぞれについて分けるということで、一緒に表現していたものを2つに分けさせていただきました。

それから、基本方針3として、地域とともにある学校づくりというようなところですが、これにつきましては、特に、ふるさと桑名への愛着と誇りを育むというようなことを基本方針2から移動してまいりました。

それから、学校と地域が連携、協働して、地域ぐるみで子どもを育てる環境づくりと。これから、最

終的には来年度から、全ての学校がそうなるわけですけど、コミュニティースクールという観点を追加させていただいております。

それから、基本方針5、教育環境の整備として、情報モラルを身につけ、情報技術を学ぶというような部分ですね。ICT教育環境の整備という部分について追加をさせていただきました。

以上でございます。よろしくご協議のほう、お願いをいたします。

【市長】

ありがとうございました。

ただいま説明があった部分につきまして、皆さんのご意見を頂戴したいと思います。

では、また、いつものごとく、では、こちらから回りますので。

【教育長】

では、よろしいでしょうか。

【市長】

お願いします。

【教育長】

今、事務局の説明を聞かせていただいて、少し私も気にはなっているんですが、いわゆる学力調査というのは、そのときだけのものですので、これをもって全てとは言えないんですけど、それでも、3年、5年見ていく中で、子どもたちの状況というものは確かなところはあのではないかなと。

ありがたいことに、学校が楽しいと言ってくれることについては、非常に賛同したいと思っているんですけども、やはりせつかく大綱で、「夢を持ち その夢に向かって努力する子を育てます」というふうに掲げているんですけども、そのところが少しちょっと、これ、全国の比ですから、一概に言えなくて、見ますと、ほんとうにちょっと何%ぐらいの差なんですけれども、低いというのは気になっておりまして、その部分をやっぱりこ入れしていきたいと。

逆に、その意味で、この理念というのは、すごく桑名の子たちにとってマッチしたというか、的を射たものではないかなと思います。

そのときに、先ほど事務局からもありましたけれども、子どもたちが夢を持つというのは、この夢を持ちなさいと言って、持つわけではないので、当然持ちたくなるようなモチベーションを上げなかなというところがあるかなと思います。

その意味で、やはり目標となるような大人のモデルというのをやっぱり幾つか見せていくことが大事かなと思ひまして、ただ、それが第一義的に親であったり、教師であるというのはもちろんなんですけれども、そのほか、世の中でいろいろ悩んだり、活躍したりしている人と出会わすことが非常に大事かなと思ひました。

その意味では、今、中学校2年生がやっています職場体験というのめかなり意味があるなと思ひておりますし、それから、市役所もやっていましたよね。親の仕事を、市役所の人たちの子どもさんが親を見るというか、ああいう取り組みをいろんなところでやっぱりやっていきたいなというふうに思ひますのと、それから、「ようこそ先輩」といって、その学校のOBを連れてきていただいて、この間も寿司屋さんに来ていただいたりですとか、レーザーをやっている人とかありましたので、そんなのもたくさんやっていかなくてはいけないなというふうな気がします。

それと、もう一つは、この間からずっと、ウナギ博士というか、教科書に出ているウナギの研究家の方に来ていただいて、市内の子どもたちと授業をしていただいたんですけども、すごく子どもたちが研究に対する構えというんですか、それがすごく感動して、今まで何げなく思っていたことに注視していくような姿勢ができたりとかってね。それから、JAXAの山中さんが来ていただいて、宇宙への話をしていただいたら、もう子どもたちの目がほんとうに輝いてというようなことがありますので、それから、ちょうど陸上の選手とかサッカーの選手も学校のほうへ来ていただいたりということもありますので、できたら、そういう機会をこれから増やしていくことが1つ大事ではないかなと。

やはり子どもたちにスイッチを入れるというか、そんなところをすごく感じてますのと、それと、

学習の中で、私、1つ気になったんですけれども、これだけいろんな祭りがあって、地域の行事があるにもかかわらず、桑名の子って案外、地域に参加していないんですよね。だから、そのあたりを、石取祭をはじめ、いろんな行事があるので、ぜひそういう形で関わってもらえるような機会づくりを仕組んでいかなくてはならないんだなと思っております。

それから、英語コンテストも去年やらせていただいたら、すごく興味を持った子もいましたので、そんな、ちょっと取り組みもと思っています。

それと、もう一方で、今、事務局が言っていましたように、幾つか授業を見せてもらうんですけれども、やはり先生が問題を出しておいて、途中で先生が答えを言うってしまうよねとか、それから、1時間の授業で、先生が20分から30分ぐらいしゃべっているというような授業も見せてもらうと、やっぱりちょっとどうなのかなという気がします。

ただ、インプットしていないとアウトプットできないということもあるので、教えて、そのまま表現させるという授業のパターンだけではないかと思えますけれども、もう少しいろんな体験の中でインプットしていくことが大事かなというふうに思いました。

それから、間違っちゃだめだよって、間違ってもいいとか、教室は間違えるところだって、ほとんどの先生は言っているんですよ。言っているんですが、その裏で、何か間違っただけに対して厳しく対応しているようなことがあるので、やはりそういう部分でリベンジできるんだというようなイメージを子どもたちにしっかり体感させていっていただきたいと。そのために、やっぱり授業の組み方を考えていくことが、地道な活動ですけれども、大事なのかなと、そんな、ちょっと感想ばかりで申しわけないですけれども、今、説明を聞いて、感じました。

以上です。

#### 【市長】

ありがとうございます。

確かに、何年前かな、夢を持ち、夢実現のために努力する子を育てようというのをずっと言い続けてきて、国の30年度の教育振興基本計画を見ると、同じようなことを言って、おそらく向かうところは同じなんだなということと、これは裏を返せば、子どもたちがあまり夢とか志を持っていなくて、そこになかなか挑戦しようという積極さがいないから、今こういうことが言われてきているのかなというふうに思いますよね。

その中で、今、教育長が言っているのが、いろんなモデルを見せるというか、大人のロールモデル、社会に開かれていくということなのかなというふうに思いますし、学校がコミュニティースクールになっていく過程で、いろんな大人と触れ合って、いろんな人をモデルにしながら、自分の夢とするような感受性を高めるというか、何かそんなことが、僕は必要になってくるのかなということでしょうかね。

まず、授業がいろいろこれから変わっていくだろうということで、この理念をもとにした授業改善を学校の先生たちがいかにやっていってもらうかというのが、非常に重要なのかなと思いますね。

ありがとうございます。

では、いつものようにぐるっと回っていきます。

では、稲垣委員、お願いします。

#### 【稲垣委員】

大綱自体は、非常にポイントがまとめられているのではないかなというふうに思います。

今、文科省も、たぶん、中室さんの『「学力」の経済学』という本が出てから変わったと思うんですよね。今、中室さんはアダプティブ・ラーニングというふうに言っていて、適応学習という意味なんですけれども、要は、ほんとうに一人一人に合わせていくというのが大事だろうというようなところで、ちょっと、私もごめんさい、勉強不足であまりよくはわかってはいないんですけれども。

では、何を思ったかという、この間も、ある小学校を見学させていただいて、そこはほんとうに先生たちが、ちょっと集団ではうまくいかないかなんていう子をすごくピックアップして、少人数学習とかに入れながらやっていて、今、不登校がないという状況があるんですよね。不登校がないという状

態をつくっていたんですよ。別に私、不登校が悪いとは、実はあまり思っていないんですけども。でも、そうやって、一人一人に合わせていくような関わりをすると、うまくいくという1つの例なのではないかなって。でも、端から見ると、いわゆる青空学級みたいなどの人数が増えるという状態にはなるんですけども。

でも、だから、やっぱりそのくらい一人一人に合わせていくというのはすごく大事で、ただ、やっぱりこの大綱を見ても、先生がやることってほんとうに多いと思います。授業改善、英語教育、学校、外国人就学までも。これを全部先生がやるって、ほんとうに不可能な話で、やっぱり先生が、だから、AIをうまく使うとなると、例えば授業がすごくうまい先生、算数を教えるのがうまい先生、その授業を撮って、その後、一人一人アダプティブさせるような関わりは先生ができるはずなんですよね。でも、市内で算数がうまい先生10人をピックアップして、例えばですけども、映像を撮って、それを流してとか、そういう時代は絶対すぐ来ると思うんですよ。塾がもうそういうふうに行っている。それでうまくいっているというのもあるんですね。これは一例ですけども。

なので、多分、先生たちも全部がこれができるようになるというよりは、それぞれのスペシャリストというか、自分はこれが得意なんだというか、そういうのもっともって自信を持ってやれるようにしてあげたいと思いますし、そうではないものに関しては、やっぱりもっと事務化だったり、コンピューターだったり、そういうのを導入しながら、手を空けていただき、そういうスペシャリストの大人を見ることが、子どもたちにとっても、何か夢になったりとか、可能性が広がるとか、そういうふうになるといいのではないかなんていうのはちょっと思いました。

#### 【市長】

確かに、稲垣委員がおっしゃるとおり、先生がほんとうに大変になるのかなというのとはすごく感じる。今でも大変なのに、ここにいろんなものが、ある意味、オンされていきますからね。マイナスのことはほぼないので。地域の人にいろいろお願いしていくといえども、おそらくそんな簡単にいかない。むしろ多分プラスですよ、これね。地域の人と一緒にやるということは、少なくともマイナスになかなかならないということは、私も非常にここは危惧していますけれども。

今、1つはAIであるとか、新しい新技術を使って、先生は先生にある役割をしてもらって、そういうものに任せていくというふうな考えもあるのではないのかなというご意見かなというふうに思いますけどね。

#### 【稲垣委員】

そうですね。多分ほんとうに一人一人を対応できるという、逆にそれは先生しかできないという、そのスキルはやっぱりもっと磨いていく必要はあるでしょうし。

#### 【市長】

先生の役割が、もう少しこう、今まで全部やってもらっているのを変えていくというんですか、先生の強み、例えば学級を経営するとか、そういうことは非常に得意なので、そういうところに特化していくみたいなことなのかもしれないですね。

#### 【稲垣委員】

そうですね。そういうのが得意な先生はそこに特化していけばいいと思いますし、やっぱり教えるのがうまい先生だと、もっともって参考に見ていてもおもしろいと思うんですよ。

#### 【市長】

今、多分これは参考になるかどうかかわからないですけど、この間、津の市長さんと話をしたんですけども、津って今、学校に公務員の事務職を入れ始めていますよね。要は先生が、対親御さんとか、対地域の調整をしようといっても、なかなか時間もかかるし、大変なんですけれども、そういうのを市役所の公務員の事務職をそういう仕事に充てて、先生はまさに子どもたちに向き合うところに特化させようというのでやられているようです。ちょっとまだうまくいっているかどうか、あまり私も聞いていないんですけど。

#### 【教育長】

国のほうも、そういうような動きはありまして、県に何人か、そういう人たちを雇うように、話が来ているんですよね。一応私どもも手を挙げておいて、来年1人を貰えるような予定なんですけれども。

【市長】

ぜひしっかり貰ってもらって。

【教育長】

ただ、それはもうちょっと、まだ津市さんもやり始めていて。

【市長】

始めたばかりなんですよ。

【教育長】

まだどれだけ効果があるかというのはわからないということをおっしゃいました。

【市長】

やっぱり先生が、ほんとうに先生のやることというふうに、うまく特化していかないと、今の稲垣委員のお話を聞くと、ほんとうに先生ばかりやるが増えて、何かすばらしいことを言うているけれども、実際、中身はあまり変わらなかったみたいなことになりかねませんので、そのあたりはちょっとしっかりと、どういう分業というか、うまく、自分たちとして1つこれからの課題かもしれないですね。

ありがとうございます。

松香委員、お願いいたします。

【松香委員】

大変よくまとまっていて、すごくまともというか、何でもしっかりカバーしてあって、いいと思うんですけど、ちょっと変わった意見では、この封筒、1枚いただくんですけど、見つけよう、一人一人のいいところというのは、実に桑名らしいと思うんですよね。現状維持というか。ここは、見つけよう、一人一人の明るい未来とかになっているといいかなと思うんですけど。

いいところを見つける。この委員会に何回も来させていただいて、皆さんすごく真面目で、よく働いて、不登校を出さないとか、先生たちとのいい関係とかいうのはよくわかるんですけど、やっぱり今、日本全体、また子どもも、未来がどうなるかというのが一番の不安だと思うんですよね。それに対して、どうにか教育というのは、こうなのではないか、ああなのではないかって示していかなければいけないというのがあるのではないかなと思うんですよね。だから、いつも封筒を見ながら、それを考えています。それは1つ。

先週、ちょっと文科省の人に会うチャンスがありまして、話していたら、学習指導要領というのが今のこのような形で出せるのは今回が最後って言ったんですよね。それで、もうその次、2030年代に出すときは、もう多分、学校というものがかなり解体されて、先生の役目も変わって、先生も要らなくなるかもしれないぐらい、個人ベースで、学ぶところも自由、家庭であるかもしれない、どこかフリースクールであるかもしれない、大体、学校に行かなくても、知識ぐらい得られてしまうかもしれないので、次の学習指導要領の改訂というのは今から取りかからなければいけなくて、大変わりするのではないかなと言うんですよね。今のままでできないのではないかって言っていました。おお、なかなか覚悟を持ってやっているんですねと冷やかしたんですけど。

でも、ほんとうにこれからどうするのか。何でも今、知識は子どもでも携帯1つあれば引けるのを、どうやってそれを使ってやるのかというふうになると、稲垣さんもおっしゃったように、ほんとうに個人対応もありますし、それから、学校に行けない子も14万人とかいるわけですよ、日本にはね。そういう子のこともどうするかって考えると、ほんとうに今の指導要領ではもう縛れないところです。

先週また、東進ハイスクールの安河内さんという人がいるんですけど、英語の先生なんですけど、今、旗を振っているんですけど、4技能とかいって。その人とお話したら、東進ハイスクールというのは、もう随分前に、20年、もっと前かな、全国配信して、伸びた予備校なんですよ。そのときは、90分構造で、東京の一番有名な講師の授業を黒板の前に立たせてやっていたんですけど、今は、受験生であろうとも、きちんと見たりできるのが5分なんですって。東進ハイスクールは、昔の90分をばらして、ば

らして、ばらして、今は全部5分切りなんですって、全ての。文法授業も5分切り。今日はこれしか話さない。もう全部、とにかく何を話すにも、全部5分切りに変えているんですって。

そういうことを考えると、学校の先生って、私が今お手伝いしている町田市のすぐ近くにある学校は、アクティブラーニングというのをものすごく今やっていて、50分授業、中学だから。先生が話しているのは25分。あとはグループ活動って、全教科決まっているんですって。だから、それでも、25分だと、5分切りだと、5ですね。

ほんとうに子どもたちも変わってきている、やっぱりこのネットの時代に、もうすごく。それはほんとうにそうなんですって。もう絶対、90分授業の、そんな画像とかあり得ないんですって。

**【稲垣委員】**

そういうのは、ちなみにグロービスもそうですよ。大人が学ぶグロービスも5分刻みで。

**【市長】**

そうになっているんだ。

**【松香委員】**

何でも5分でなければ、集中しないんだそうです。だから、すごく知識を整理して、5分ずつにまとめるとか、そんなことが人間にとっていいかどうかはよくわからないんですけど、短くなっていることは事実。

だから、授業改善とかいっても、ほんとうにそういうことを考えなければいけないのかなと思ったり、やっぱり、あとはそういうAIとか、そういうのが来ますから、これからほんとうに学校もなくなるかもしれない。要らなくなって、教員というの也要らなくなってしまうかもしれないというような時代が来るということを文科省が覚悟しているんだということから、もうちょっと未来志向に向けて、せっかく事務局の方、一生懸命つくってくれたんですけど、何かどこか、どこもかも未来の匂いがするというのが、私好みです。

**【市長】**

ありがとうございます。

多分おそらくその文言は、この人権教育の部分からスタートしているものの文言なのではないかなと思いますけれども、先生の言うように、未来志向でもっといられると。

**【松香委員】**

いや、すごくよくやっているんですよ。もう桑名って、ほんとうに真面目だなと毎回思っています。こういう真面目にしっかりやっただけだけれども、どこも未来志向にならざるを得ないですよ。今、未来に対する不安というのが一番大きいので。

**【市長】**

今日も、冒頭、まさにそういう話からスタートしていますので、未来がどうなるかわからないと、もう国も言い始めているということからスタートしまして。それと、この現場の温度の差というんですか、何かそういう感じがあるのかなというふうに感じますよね。

私、ちょうど高校生のとときに東進の桑名駅前校が開校されて、だから、私が十六、七だと思うから、二十五、六年前だと思いますけれども、当時も画期的だなと思いますけれども。もうその5分切りというか、まさに時間すらもう、もっと細切れになってきていると考えると、そういう時代になったんだなということ。でも、学校現場でそういう5分切りの授業できますかね。

**【教育監兼学校支援課長】**

よく言われるのが、授業の導入で、15分も20分もかけていたらだめですよ。大体、最大7分。

**【松香委員】**

最大7分。

**【市長】**

そういうふうなのがあるんですか。

**【教育監兼学校支援課長】**

だから、結局、その日の授業で何をするのかとか、何を身につけなければいけないのかというのを把握させるのに長い時間をかけているとあかんと。逆に5分でぱっとイメージできるぐらいが、1時間でおさまる中身なんだよということ。でも、長くなりますね、実際の授業は。

【市長】

そこは長くなるんだけど、まあ、なるほど。

【教育監兼学校支援課長】

だけど、やっぱり意識して、もう5分程度で導入して、もうすぐ子どもたちに課題に取り組ませるぐらいのつもりで授業を組んでいかないと、主体的な授業はなかなか組まなければならないというのは、これまでの研究では言われています。

【市長】

そういうのをやっぱりやるんですね。その時間が、子どもの集中する時間もそうだけど、とにかくどんどん多分短くなっているんですね、何でもかんでもね。

【松香委員】

そうですね。私がドコモg a c c oというのに、ちょっと最近、10分刻みで40講座というのをつくって、今やっているんですけど、そうしたら、長いつて言われたんですよ、その先生に。

【市長】

10分が長いんだ、もう。

【松香委員】

10分は長いですよって。えっ、そうなんですかって。10分はだめだそうです。だめというか。今の子は、どんどんスパンが短くなっている。

【市長】

先生の言うように、いいのか悪いかは別としてそうになっていますよね。深く考えずに、リアクションだけめっちゃ早いとか、そういうのはありますからね。

【松香委員】

知識もすぐ手に入るから。

【市長】

そうですね。

【松香委員】

大変ですよ。

【市長】

多分学校がなくなっても、私も最近思ったんですけど、多分羽生結弦君とか、藤井聡太君と違って、おそらく学校で、ああやって成長していないですよ。おそらくフィギュアスケートで成長したりとか、将棋を通じて成長して、あのようなまさに人間としてもすばらしい方に育ったりしていると思います。そういうのを見ていると、何で人が育つのかって、確かに学校だけではないのかもしれないというのは。

【松香委員】

あれは、彼らは天才ですから、ちょっと別でしょう。

【市長】

いや、競技としての天才と、人としての何というか、この。あれはおそらく経営者とかの視点で見ても、あのようなすばらしい子どもってすごいなと思われると思うんですよ。でも、学校でおそらく育っていないというか、多分学校では寝ていたとか、ただ座っている子だと思うんですよ。ああいうのを考えると、確かにそういうのも出てくるのかなというのは、ちょっと感じはしますね。

ありがとうございます。しっかりと未来志向になるようには頑張っています。

では、次、安藤委員、お願いいたします。

【安藤委員】

前回も同じことを言わせていただきましたけど、やっぱり夢を持つには、その基盤がないとというこ

とがすごく思うので、子ども自身にも、それから、保護者とか、先生とかにもゆとりがないと、夢にはいけないみたいな、あくせくしているのでは、なかなか目の前のことしか見られないしというのは思いますし、それから、そのためにはすごく家庭の基盤とか経済力とかって、教育力とかというのが大事なので、ぜひそんなことも教育大綱で考えていただけたらありがたいなというふうに思います。

それから、子どもたちの桑名の実態で、地域とか社会への関心がないとかというので、教育長が言われたように、桑名にはお祭りが多かったりとかって、それこそ環境はあるのになと思うんですけど、何でそんなふうになるのかなって。さっきの話ではないけど、目先のこと、きちっとはできるけれど、ちょっと大きな視野はなかなか子どもたち、大人がそうなのかなと思うんですけど、ないのかなというふうに思うんです。

それって、やっぱり自分は何になりたいかとか、どうしていききたいかということにもつながると思うので、なぜ桑名の子たちはそうなのかな、社会のことにあまり興味がなかったりとか、自分の行く末や人のことに目が行かないのかなということも分析していかなあかなというふうに思います。

それから、最後に、基本方針8つになったということで、豊かな心と健やかな体が分かれた。健やかな体というのはほんとうに大事だなと思うので、分けていただいて、そこにしっかりとスポットライトを当てていただくのはいいなと思います。職を辞してから、わりと近親者の介護とか、そういうのに携わって、やっぱり食の大事さ、人間、食べることと体を動かすことをやっていたら何とかなるみたいなところが、それが子どものうちとか、それから、子どもを持っている親御さんも考えている方もたくさん見えますと思いますけど、まだ小さいうちだからみたいなことで、なかなかそういう気が行かなかったりするの、後々きいてくるなということが、今になって、非常によくわかるので、食とか、体を動かすことの大切さというのを大切にしていっていただきたいなというふうに思いました。

以上です。

#### 【市長】

ありがとうございます。

まさに、まず家庭の基盤というか、やっぱりそこで夢が持てる、持てないの差が出ていけないようにするというのがまず大前提だというふうに思っていますし、福祉の部分で今、ほんとうに教育もしっかりと連携してもらって、さまざまな取り組みをしてもらっていますので、ここを、非常に力を入れていくということになっていくだろうなというふうに思いますね。

あと、今ですと、言語が違う子、ルールが違う子たちも入ってきて、かなり入ってきていますので、この子どもたちのベースの部分もかなり大きな問題なのかなというふうに感じます。

それから、桑名の子どもたちは、ほんとうにお祭りもあるのに、地域のことになかなか興味を持っていないというのは、確かにしっかり分析していく必要もあるんだろうなと思いますね。それこそ、ここは基盤があるのになぜなんだろうというのはありますけれども、何かやたら忙しいですね、子どもたちね。

うちの子どもを見ておっても、友達と遊ぶのに、スケジュール帳なんか見て、ここ、何々ちゃんは火曜日は何とかでだめだから、何々ちゃんが行けるかもしれないとか、昔と全然違うと思いますけど、しっかりと地域と向き合うことの、もっと大事さをうまくわかってもらえるような取り組みができればいいなというふうに思います。

あと、体はほんとうに大事ですし、誰かの本を見たけど、東大に入った子どもらと一般の子どもらの違いが、睡眠時間で大体わかるみたいなことを言っていて、東大に行く子の子どもどものときは8時までに寝た子の割合が四十何%と言ったかな。9時半以降まで起きていた子というのは、もう5%か何かしかないとか。これは多分まさに食べ物と睡眠とか、まさに体をつくる部分でいろんな差も出たりするのかなみたいなことを感じたりしましたけど。確かに体も、運動も大事ですけど、しっかり体を育てることも力を入れていければなというふうに思います。ありがとうございます。

では、佐藤委員、お願いいたします。

#### 【佐藤委員】

今回、この教育大綱基本理念の「夢を持ち その夢に向かって努力する子を育てます」ということを、改めて子を持つ親として、1つ考えさせられることがありまして、数カ月前になりますけれども、教育の理念になるからでしょうか、小学校で子どもたちに将来の夢は何ですかとか、どういうものになりたいですかというアンケートがあったそうなんです。低学年である、三男は、パティシエになりたい、職業が最初に来たんですね。パティシエになりたい。6年生の子がどういった回答をしたか、後で見たら、そこそこ給料が高くて、休みがたくさんもらえるホワイト企業の会社員。その職業がどうのこうのはいいとして、1つは低学年から高学年になるに当たって、少し現実的なことを考えるようになるんだなということを感じたのが1つと、先ほど申し上げましたように、夢イコール職業というのが、イコールになっていると。3つ目がやはり自分自身の中でリミッターを設定しているのをちょっと感じまして。

その後、子どもと話している中で、やっぱり夢というのは、イコール希望であったりすると思うんですけども、将来への期待があまりないというか、将来の期待というのは、社会がというよりも自分自身への期待がなくて、まあ自分はこれぐらいしか行かないだろうなとかという上限を設定しているのではないかなというふうに話の中で感じまして。

それが、なぜそれが起きているかというのが、はっきりはわからないんですけども、それが点数による結果からして、自分はこれまでしか行かないだろうというふうな、自分なりの落とし込みをしているのか、そこら辺はまだはっきりわからず、そこが親としては、1つ、やはり強みではないですけど、得意な分野で自信を持たせる、将来に対する期待が、自分自身への期待を持ってないというのは、結局自信がないということかなというふうに思っていますので、いかに得意とするところというか、伸ばせるところで褒めて、結果を出して、自信を持たせることが、将来の夢とか、もっと大きな、自分の今持っている能力より高い能力を発揮できるようなことがやっていけるのではないかなということが、改めて、今回の感想です。

もう一つは、夢イコール職業となっているのは、決してそれは正しいと思いますし、加えまして、やはり先ほどの教育委員会からも説明がありましたように、職業だけではなくて、人間像ということを見ると、我々、親がやはり社会に出てから、どういう生活を送ってほしいかという希望があって、ついついやっぱり夢イコール職業に持って行ってしまっているのではないかなというふうに感じていまして、そこら辺は改めて、我々として反省すべきかなというふうに。

そういうことを考えると、やはり先ほどちょっとお話がありましたけど、教育現場だけではなくて、やはり親というか、もう一度見直すのがやっぱり非常に重要だなと思ひまして、そういう面では、コミュニティスクールって、どちらかという、学校がやっている仕事を地域の方にお問い合わせするのではなくて、ある意味、親がとか、地域が勉強する場でもあるかなというふうに、ちょっと改めて思った次第です。

どう自信をつけさせるかというのは非常に難しく、結果が出れば、多分自信になるでしょうけど、結果を出すまでの努力が非常に必要で、そこが、努力している間に継続できるか、挫折しないかというところが、今非常に感じる場所ですね。

#### 【市長】

未来ばかり見て、しかもどうなるかわからない未来ばかり見ていると、おそらくリミッターもかけてしまうので、おそらく振り返る場というか、ここまでやってきた自分の積み上げてきたものにどう自信を持たせるのかという、その視点がやはり、そこをきちんと認めてあげるというか、こんなに頑張ってきたんだから、この後もこうやって頑張れば大丈夫だとか、そういう視点も要りますよね。

やっぱりこの短絡的にというか、お金が稼げる、稼げないみたいなのところに、何となく行きがちですよ。行きがちですけども、やっぱり教育長もそうですね、何か世の中をよくするとか、何かそういうことに、向き合えるというか、そういうような部分も。あまりにも短絡的に、それは確かにお金は大事なんですけれども、やっぱり人類未到の何かをしてみるとか、そういうことも見られるような、そういうものと触れ合うみたいなことなのかな、やっぱり。

やっぱり地域も学ぶところだと思いますので、それこそ学校だけが変わるというよりも、地域みんなで成長するというか、みんなでいいまちをつくるとか、いい社会をつくろうとか、何かそういうような考えでコミュニティースクールができてくるといいですよ。

地域も現状維持ではできませんし、おそらく学校も現状維持ではできないので、そのときにそこでプラスの、両方がプラスのイメージで、コミュニティースクールで地域がよくなるとか、学校がよくなるというのが持っていけるといいのかもしれないですね。ありがとうございます。

松岡委員、お願いいたします。

#### 【松岡委員】

2つのことを言います。

1つ目は、弱みとして、将来の夢や目標を持っているという数字が低いということで、どうしたものかなと思うんですけど、1つは大人がやっぱり見本を見せないといけないのかなと思うんですね。子どもだけに夢を持ちなさいと言って、先生も親も仕事でいっぱいだと、ちょっとやっぱりだめで、仕事とか、そういうのをちょっと離れた、遊び心的なの子どもに見えるといいのかなと思うんですよ。

例えば、先生が学校のことを離れて、ちょっとこんなことをやっていて、わからないですけど、頑張ってると思ったら、この間こんなことができたよというのをちょっと話して聞かせるとか、親は親で、帰ってきたら、もう疲れたという顔をして、テレビだけ見ているとか、受動的な生活ではだめで、仕事や家事とちょっと離れたところで、10年単位くらいで、こんなふうなことをやりたいなというのが子どもに見える、そんなようなことをやるといいのかなと。

ここにいらっしゃる皆さん、今大人ですよ。10年先の自分に対して夢を持っている人、どういう夢がありますかと言われたら、ちょっと詰まる人が多いのではないですかね。市長さんはいろんなビジョンをお持ちかもしれませんが、サラリーマンで日ごろの仕事を問題なくこなすということで手いっぱい、あまりそれ以外に考えたことがないというふうなのを子どもが見ていると、やっぱり夢を持ちにくくなる。学校も、子どもたちはやっぱりテストでいい成績をとることが、日ごろの業務という、それで手いっぱい、ちょっと遊び心を持つような感じにはなれないということではいけないんだよというのを見せてあげるのが、1つ必要かなというのをちょっと思いました。

それから、もう一つも弱みのところになるんですけど、地域の問題や出来事、関心とか、地域のことを調べたり、この辺も弱みになっているということなんですけど、桑名で大きな石取祭とか、そういうのはみんなわかるわけですけども、もう少し細かいところで、まちの中で地蔵さんがあったりとか、石碑とかって、これ、何だっけという、調べてもすぐにはちょっとわからない感じですね。

昔、我々は親からいろいろ昔のことを聞かされて、ここはもともとこういうところで、大名さんが通ったりもしたんだよとか、そういう話、それのこれがあるんだよとか、そんな断片的なことしか覚えていないけど、そんな話もあったんですけど、今、だんだんわからなくなっていますよね。それがわかるような形にできないかなと。

ちょっとまちづくりに関係するんですけども、説明をつけようと思うと、またプレートをするのはお金がかかりますけど、QRコードを張りつけて、かざすとわかるとか、そういうのはちょっとシステムをつくったら、あとは追加していただけなので、何かそんなので、知らなかったという部分が、地域の自分たちの土地のことを知るようなこととか、携帯を子どもは直接は無理かもしれないけれども、親にちょこっとやってもらって見るみたいな、そんなことで地域に関心を持てるような仕組みを何か考えないといけないのかなと思うんですね。

以上です。

#### 【市長】

ありがとうございます。

これは最初の夢の部分でも、今思い出しましたが、桑名にてっぺんという居酒屋があって、大嶋啓介さんという方がやっておられたんですけど、彼はやっぱり、酒を飲んで愚痴を言わない居酒屋をつく

ろうと。大体大人は酒を飲むと愚痴ばかり出てくるけれども、愚痴ではなくて、夢を語る居酒屋をつくらうとって、スタートしていたなと今思い出しましたがけれども。おそらくそれだけみんなが疲れて、愚痴を言っているお店のほうがおそらく多いですね。それぐらいやっぱり社会全体がそうなっているのかなと思いますけど。

親がしっかりと、そういうものを見せられるのか。親というか、おそらく大人ですよ。これは親以外、全ての人たちが疲れ切っていないというか、楽しそうにしているとか、夢を持って、それに向かって、大人も頑張っているというものを、姿勢を見せるという社会にしないではいけないということかなと捉えました。

それから、やっぱり確かに地域と子どものつながりって希薄になっているのと違うかってありましたけど、大人も、だから、そういう意味でどんどん地域と距離が出てきていて、また、外から入ってくる方からしたら、もう地域は何ぞやみたいなのところにもなっていると思いますし、そこをいかにもう一度、大人も含めて、地域に興味を持てるとかというのはすごく大事だなと思いましたね。

それこそ今、防災、今年、伊勢湾台風60年なので、防災ってすごく大事だなと今思って、取り組んでいますけれども、60年前はあのようないい堤防がなくて、もうとにかく中へ来ると、すぐ水が入ってくるというのが当たり前だったんですけど、今いい堤防ができたことで、子どもたちもあまり防災の意識って下がっているんですよ。下がっているか、そもそもないんですよ。ここが危険な場所とは思わなかったみたいなことをよく言うわけですよ。

でも、学校の屋上とか見て、自分のところの住んでいる土地の高さと川の水面の高さを見たら、水面のほうが高いのを見て、うわっ、こんなところに住んでいるんだみたいに、今さら気づくのかみたいな感じが、子どもら、結構あったりしましたけど。

なかなかそういうのを含めて、体感、実感というか、自分の住んでいるところについてのことをしっかり考えていかないと危ないよねとかも含めて、いろいろ必要なのかなということを感じましたね。

ちょっとしっかりと、どういう仕組みがいいのか、語り部といいますか、地域のことを知っているおじいちゃん、おばあちゃんもどんどんこれから亡くなっていかれたりする中で、しっかりとそういうものがつくれる地域を、学校でないところでもつくらなくてはいけないのかなということを感じました。ありがとうございます。

**【松香委員】**

一言いいですか。

**【市長】**

お願いします。

**【松香委員】**

桑名のよさとか、そういうのって、比較ではないと、なかなかわからない。日本から一步出て、留学とかすると、日本のよさとかわかるみたいに。

きのう、英語コンテストの将来はどうかという会議があったんですけど、やっぱり桑名、ゆくゆくはいろんな市、三重県でいいから、津でも松阪でも四日市でも何でもいいですけど、いなべでも何でも、そういうところから公募してきて、それぞれの自慢というのをやって、桑名の子も負けずに自慢するという、そういう、他市はこういういいところがあるって、もうちょっと広く比べるようなシステムはつくりたいなという話が出て、それで、英語がいいのは、英語で言うと、あまり大したことは言えないんですけど、一步離れて、もう一回見られるみたいな、何か桑名の中で問題だけ全部解決しようというのはなかなか難しいのかなということを感じていますね。

桑名の子は桑名の子で、毎日しっかり学校へ行って、しっかり塾へ行って、しっかり暮らしているんですけど、そういう中で、郷土と言われてもぴんとこないの、何か一步、県外に、市に、外にどこか行かせるとか、県外に出すとか、何かそういうことをやって比較すると、多分市長さんも一回東京へ出て、実は桑名っていいところなのではないかって戻ってこられたんですよ。だから、そういう。

一回出るとわかるけど、小中学生とかはわからないですよ、なかなか。憧れの東京とか行ってし

まうと、桑名がやたらとみすぼらしく見えたりとか、そんなことだと思うんですね。だから、何かそういうことがもうちょっとあるといいかなって、すごく思っています。

【市長】

子どものときだとわかりにくいというのはあるでしょうね。だけど、どうやってやるとできるかな。

【松香委員】

私は英語でそういうことはできるなという気が。

【市長】

英語はそうでしょうね。

【松香委員】

まあ、いいかなと、いろんなところで競争し合うような、公募できたらいいねという話はきのう出ました。

でも、きっとどこか活かせるときもあるでしょうし、どこかの人をお呼びするときも。

【市長】

来るとかも、交流とかもありますよね。

【教育長】

だけど、三重県レベルでというのはわかりません。もっとほかへって。

【松香委員】

そうですね。どうにか、そういうふうにしたいねとかいう話は出ました。

【稲垣委員】

さっきの教育長の提案も、桑名市の人ではなくて、桑名市の外に出た人に、里帰りのときをお願いするとかって。

あと、うちの子もこの間、修学旅行へ行っていましたけど、東京でいろんな企業さんとかも回るんですね。それも、桑名市出身のところがあるところで、そういうところで声を出してもらおうとか、そういうのもありますね。

【松香委員】

ウナギの博士は桑名出身なんですか。

【教育長】

いえいえ、違います。教科書に載っているから。5年生の教科書ですね。

前よく言われたグローバルという言葉が、ほかとの交流も必要だし、自分もまたそれで振り返るようなことは大事でしょうね。

【市長】

子ども同士でもその空気を感じるみたいなことなのかな。

【教育長】

そうですね。そのためにやっぱりいろんな大人と出会うというのが大事かなと思いますね。

【稲垣委員】

大人ではなくて、もしくは子どもでもいいと思うんですね。姉妹校みたいな、提携校とか。

【松香委員】

ここででもいいと思うんですね。何か比較しないとわからないかなというのはあると思うんですね。桑名に住んでいると、桑名のいいところはわからない。

【教育長】

前は、3市交流といいまして、白河さんと姉妹都市の行田さんとはよく、例えば生徒指導上の問題、いじめの問題とか、防災のことなんかもやっていたんですね。ちょっと今のところ、間を置いてしまっていますけれども。

【市長】

一部の子たちだとできるかなというようなことはできるけど、その今の先生の話は、みんながやらな

いといけないですね、今の話だとね。一部の子たちだけ感じて終わっていると、何かそれもどうかなって話もあったからね。

【教育長】

ねえ、そういう、ちょっと、前はありましたけど。

【市長】

私たちの桑名みたいなのを別のまちの本に変えてみるとかね。私たちの町田とか、全然よくわからないけど、こんなところ、あるみたいな。

【教育長】

おもしろいかもしれないですね。私たちの四日市とか私たちの津というのは全部あるんですよ。

【市長】

ありますよね、どこでも。

【教育長】

それを交流しながらというの。

【市長】

えっ、全然違うやん、桑名とみたいな。給食、ありませんとか、えっ、最悪やんとか、何か。桑名、ええところ、あるやんとかってなるかもしれない。

確かに、みんなでやれる取り組みみたいなのを、ちょっと何かそういうのを考える比較みたいなのがみんなで体感できるというのはあるかもしれないですね。

【松香委員】

松岡先生が言われたみたいに、いろんな名所に、お地蔵さん1つでも、そこに何かQRコードとかついていて、ピッとやるとわかるとか、そういうのって、確かに。

何を、桑名のいいところをするか、難しい問題ですよ、毎日生きている子どもにね。特に小中学生だと、家庭の中に住んでいたり。やっぱり家庭でも、外のうちに行くと、自分のうちのごちそうはどれだけおいしいかどうかというのともわかると同じように。

【市長】

うちの部屋がこんなに狭いのかとか、そういうの、気づいて。大変ですね、比較されると、ほんとうに。でも、比較して初めてわかることがいっぱいあったので。

その辺の視点も踏まえて。これはどうしたらいい。踏まえてどうするんですか。

【松香委員】

何か具体案を。

【市長】

次には、たくさんいただいて、また、この次に最後、最終版が出てくるから、そこに向けて、これを盛り込んでいくということですね。

【教育監兼学校支援課長】

今いただいた意見を、また、ページや形を変えてということです。

【市長】

では、そういう形で。

【教育長】

もう一点いいですかね。

ちょっといろいろ私どもで小中一貫の取り組みも、来年から小中一貫教育へと。この大綱の中にも幾つかその関係のところは書いてもらっているんですけども、今ちょっとお話しいただいた中にあったように、自信を持つとか、チャレンジをしていくとか、大丈夫だよというのを、やっぱり小中で一緒にやっついていかんと、せっかく小学校で6年間やってきても、中学校でまた文句を言われるとか、逆に、小学校でずっと教え込むというか、ずっとチャレンジするよりも、もっと大事なものがあると言われてやっついていくと、もう中1になってから、そういう、もっと未来に対してチャレンジしていこうと言って

も、あまり効き目がないようなことにも思うので、やっぱり同じ、今のこういう雰囲気は小中の先生方が一緒に持ってもらうことは非常に大事だなと思いますのと、稲垣委員が言ってくれた、前に言ってみえたんですけど、学校の先生というのは、せっかくいい授業とか、いい実践があっても、その人が異動していくと、またゼロに戻ってしまうよねとおっしゃっていましたので、すごく気になっていまして、だから、そういういいものを積み重ねていくというか、今うまい授業を、東進さんみたいにやるというのも1つだと思いますけれども、その辺のチームワークをつくるのに、やっぱり小中で一緒にその財産を交流し合うとか、そんなことが大事なのかというのと、中学校の先生と小学校の先生が一緒になると、教科担任制の話もすごくできたり、物理的にメンバーが多くなりますから、いいところはできると思うし、その辺のところも少し盛り込んでいただくとうれしいなと思いますので、ちょっと蛇足でございますが。

**【市長】**

これは、小中の英語9年プランで、ある意味1つつくってきている実績もありますし、こういうのを全体で、小中みんなで9年間やろうというのは、そういうムードが出てくると意味があるかなということ。了解しました。

では、その辺もしっかりとよろしく。

**【稲垣委員】**

では、もう一つ、いいですか。済みません。

**【市長】**

はい、どうぞ。お願いします。

**【稲垣委員】**

私は前回好きなことを言わせていただいたので、夢に関してはすごくオーケーなんですけれども、さっき佐藤委員がおっしゃってくださったことが結構、今、心に残っていて、やっぱり夢を持つ、チャレンジするベースとなる安心感とか、自分に自信が持てるというのは、私なんか、前、物の本によると、家庭と学校でフィフティ・フィフティというふうに書いてあったんですよね。

でも、さっき羽生結弦君とかは、多分、でも、家庭50はすごくいいはずですよ。どこかで学びが50でよかったりとか、まあ、いろんな、人によって、要素はいろいろあるんですけども、そう考えると、やっぱり私は母として、市長の前でなんですけど、桑名って、お金、ないよねとかって、みんな言いますよね。とか、この学校、ぼろいから、どうなるのかしらとか、ああいうのが、もしかしたら、親が子どもの前で言っていて、それによって、桑名って、いても、そんなに夢って持てないんじゃないのとか、このまち、やばいんじゃないのとか、そういう雰囲気をつくっているかもしれない。

だから、学校、家庭という単位をもうちょっと広げると、やっぱり桑名市というところがどれだけ安心で、すごく自信のあるまちだ、誇りのあるまちなんだよというのをやっぱりもっと出していく必要があるのかなって、済みません、思いました、なので、この中にもうちょっと夢に向かうために、すごく安心な場所なんだよとか、安心な教育の場をつくるよとか。

私なんか実際お母さんとかと話していても、すごくお母さんの不安感ってあるんですよね。それと、ほんとうにさっきの松香先生ではないですけど、知らないだけ、世界はもっと広いよって、別に小学校に行かなくたって、世の中、全然うまくいくよと、私はすごく思っているんですけど、何とか高校に行かなければどうになってしまうのという不安感って、すごく多いと思うんですよね。

なので、そういう意味での、桑名市ってほんとうにいいところだよというメッセージは、ちょっと何をしたらいいのかわからないんですけども、同じ延長線上にここにも盛り込めたらいいなというのが、ちょっと、済みません、抽象的なんですけど。

**【市長】**

桑名全体の総合計画をつくる時、そういう議論も結構いっぱいあって、誇りが持てるまちで、持続的に成長するまちにしようというのをまさにつくっていったんですけども、その辺が結局、個別に落ちていくと、その辺がぼろぼろ見えなくなってきて、確かに桑名だけではなくて、日本中お金がないん

ですけど、そういうふうに桑名は何とかだからみたいな、ある意味、佐藤委員の発言にも、リミッターを自分たちでもかけて、桑名はこんなものだからみたいなことに、大人がしてしまっている部分もあるのかもしれないですね。

#### 【稲垣委員】

なのと、やっぱりうまくいっている人とか、もっとほんとうに出してもいいと思いますし、それこそ。桑名から出て、外に出て活躍している人たちも、もっと紹介してもいいと思いますし、いいのかどうか、さきほど、ほんとうに不登校のない小学校もあるよとあって、こういう取り組みをしていて、アダプティブ、ほんとうに一人一人に合わせた取り組みをして、だから、みんな安心だよとか、自分らしく生きていけるんだよとか、その延長線上に夢を持ったり、チャレンジできるよとかというストーリーのほうが変わりあい取りやすいかなというふうにちょっと思ったんですね。

#### 【松香委員】

でも、やっぱりそれが教育という場面でできるのは、コミュニティーを動かすしかなくて、さっきどなたかがコミュニティースクールというのは、学校がお願いして、コミュニティーにやってもらうのではなくて、本来的にはコミュニティーの下に学校があるみたいな、どっちが上下というのはおかしいですけど、でも、そういうことなんだろうと思いますね。そこが、まあ、いろんな議論もお聞きしましたけど、結局コミュニティーの中に責任、みんなお手伝いはしますよと言うけど、責任を持ってやってもいいよという人がいないとか、そこら辺のちょっとそういうのはね。コミュニティーを動かす方法なのではないかと思うんですよ、詰まるところ、地方都市ってね。コミュニティーを動かすしかないんですよ。

#### 【市長】

ここの互助というか、共助というか、この強みはやはり日本の地域が持っている強みだと思いますのでね。

答え、答えても大丈夫かな。こっち側からの働きかけの仕方が多分今うまくいっていないだけで、地域には全然地域で活動している人いっぱいいますし、その人たちが、まさにこっちの働きかけでお願いしますというよりも、こうやってやろうぜというふうな空気になっていくように、今まちづくり協議会などの設立って、みんなでやろうぜという空気をつくらうというのをやって、新たな公民館とかを変えて、今、地域の中で活動できる拠点をつくらうとすると、非常にテンションが上がっている地域とか出てきたりしますので、そういう取り組みがそのままコミュニティースクールのほうへうまく波及してくるように、来年度、それは持っていってもらおうよということ。

#### 【教育長】

我々が今目指しているコミュニティースクールは、松香委員がおっしゃった、そのとおりですから、みんなが、委員さんが責任を持って、学校に何かお手伝いするのではなくて、自分たちがまちづくりをしますよというようなコミュニティースクールを目指しているわけですが、スイッチが入るかというのは非常に難しいところで、だから、その、どうですかね、旗を振ってくれる人が何人かあるといいなというふうに思っていますので、これから、来年すぐにコミュニティースクールが、つくりました、すぐ稼働しますとは思っていないんですけども、ちょっと今のまちづくりの視点で、1つの起爆剤みたいになってくれるといいかなと思っているんですけどね。

#### 【市長】

地域にはキーマンになれる人がそれなりにおられますので、そういう人たちがうまく、うまくというか、学校もやろうぜみたいになってくると、歩き始めるのかなと思いますね。

ただ、そこにどれだけ関わる子を増やすかといいますか、そこが僕は重要なかなと思いますけれども。

そこはちょっとコミュニティースクールをやっていく上でしっかりとしていきたいなと思います。

#### 【教育長】

その意味では、PTAさんのOBさんというんですか、学校を出ると、もう関わりないよと言われていると悪いんだけど、その人を取り込んでいくと、かなりエネルギーな人たちが来てくれるかなと

思うんですけど。

【市長】

おやじの会的な乗りの方たちが入っていただけると。

地域で活動しているのは、どっちかって、やっぱりもう年配の方ということになっている部分もありますので、現役の方というか、社会と、社会とというか、つながっている方たちをいかに学校現場にうまく入ってきてもらうかということでしょうね。

【教育長】

ただ、非常にお忙しい中なので、ちょっとした時間にみんながかわりばんこにできるとか、そんなシステムをつくらないと、全員が集まるといのはもう難しいと思いますので、そんなのをどういうふうにつくっていけるかなといのはやはりありますよね。

【市長】

議論が尽きないところでありますけれども、どうも、いろいろご意見いただきまして、ありがとうございました。

引き続き、これまでの熟議を踏まえ、教育大綱の後半部分ですね。8つの現状と課題と基本方針について、これ、説明なしでいきなり入っていく。

【教育監兼学校支援課長】

そうですね。今の議論していただいたことをもとに、その紙も見えていただいて、この具体的内容について。

【市長】

もう具体的内容について議論してもらおうということですね。

前半ちょっと大分重くなってしまいましたので。

こっちから、教育長から、読んでいただきながらという感じかな。

【教育長】

私もちょっと、知・徳・体という言い方ではないですけども、豊かな心と健やかな体を分けてもらったのは、非常にいいのかなと思っています。

その中で、案外、学力の面に少しスポットが、やっぱり学校関係だとなるような気がしますので、やはり心の面とか、体の面についても考えていくと、非常にいいのではないかなと思います。

体というと、体力の面でどれぐらい全国順位が上がったんやという、いきなりなるんですけども、やはり一番土台になるような食育というんですか、その部分にも少しメスを入れていっていただきたいなと思いますのと、それと全体の中でどうしても先生たちのありようが非常に問題になるんですけども、そのあたりで、簡単に言うと、働き方になるんですけども、先生たちが元気でないと、子どもたちの前へ出ても、あまり十分な指導ができないというふうに思いますので、やはり先生たちも人間としてというか、1人の社会人として生きられるような部分を少しこの中に入れていただくとありがたいなという気持ちを持っています。

とりあえず以上です。

【市長】

それは文言を入れておけばいいの。単にその働き方みたいな。

【教育長】

働き方のほうはあまり触れる機会はないなと思ったんですよ。

【市長】

確かにね。

【教育長】

強いて言うなら、教員研修の充実の当りに少し、効率的に働くというんですか、手を抜くというわけではなくて、その部分が非常に大事だということで、先ほど稲垣委員がおっしゃっていましたが、やはり役割分担だってもう少しやっていかなくはないし、市長さんがおっしゃっていただいたよ

うに、ある意味、任せられる分はほかの職種の人たちを入れてもらうことも大事なかなと思いますので、そのあたりも含めて、AIの部分もあるかもしれませんが、そんなことも少し触れてもらうといいかなと思うんですよね。

【市長】

そうですね。

そのあたり、どうですか。一応事務方として考えていかなければいけないですよ。AIとか、もうまさに、公務員の仕事にも使われ始めまして、我々も今、保育所の入所判定基準という、保育所に入りたい方たちのどこの保育園に行ってもらいかみたいな、判定していくという作業があって、今までは公務員が3人かかって、残業150時間かけて、やっていたんです。この人はA保育園、この子は兄弟がここにいるから、B保育園とか、そういうのも分けていたんですけど、その機械を使ったら、もうボタンを押したら1秒で決まるみたいなね。

ほぼ人間の手作業と九十何%だったかな、95%だったかな、の一致率で出てくるんです。もうこの150時間は何だったんだみたいな感じにはなるんですけども。

やっぱりそういうのが、何とかニュースで出ているやつが、もう実際のところでも、もうそういうのは置いてやっていますから、学校現場でも、何かそのあたり、いろんな事務的な部分は、それはもうやはり子どもと向き合うプロですから、そこで頑張ってもらって、事務的なものはどんどん置き換えていくということはできるかもしれないですね。

ありがとうございます。

稲垣委員、続いてお願いいたします。

【稲垣委員】

この文言等とは特には。中身に関してってことですね。

【市長】

そうです。はい、中身です。5ページ以降ですかね。

【稲垣委員】

特には違和感はなかったんですけど。はい。

強いて言うなら、さっき2ページのところ、どこかに地域の安心感をベースにして夢を育む教育を進めていくみたいな、ちょっと安心みたいな言葉がどこかに欲しいなど。

【市長】

誇りとか安心ということですね。

【稲垣委員】

はい。申しわけありません。

【市長】

では、そのあたりを書いてもらって。

では、松香委員、お願いします。

【松香委員】

この12ページの基本方針7、文化・スポーツの振興ということで、前、月例会の会で何かやったときのこと、議論したときのことを覚えているんですけど、桑名市にはたくさんの文化施設みたいなのがあって、その報告を受けたときに、文化施設の活用報告って書いてあって、それを見ると、どういう施設があって、それは何時から何時まで稼働していて、どうのこうのという、そういう文化施設があるよという、そういう施設とかの説明とかが多くて、それをどういうふうを活用したかというところが、スポーツのときもそういう議論があったと思うんです。どういうことを。

活用ということが弱いかなといつも思うんです。報告書を見ると、こういうのはあるよ、こういういいこと、いい場所がありますって、すごく細かく報告書は出るんですけど、では、文化施設があって、それを使って、どういうことをやって、どういうことが動いて、地域の人は何をやって、どういう成果が出ているとか、そこが、皆さんすごく真面目に働いていて、非常にきっちりビジーもして、もう義

務も果たしていると思うんですけど、これからの、この間、文科省の人とちょっとお話したときには、ほんとうその話になったんですけど、これからの公務員というのは、自分が今やっていることはどうなのかと考えないで働くことはもう罪悪に近くて、維持管理をきっちりやれば済むというような時代ではなくて、ほんとうにどうしたらいいのか、文化財を、では、多過ぎるって、どこのまちでも悩んでいますよね。ほんとうに統合しなければいけないところも、町田市とかもすごいやっているんですよ。博物館をやめて、何かをやめて、何とかで1個にするとか、もうすごく財政にも響くから。

そういうときにやっぱり内容は、一番大事なのは活用ですよ。活用した、思うに、スポーツも、こういう施設があって、こうこうこうこうって現状でなく、ほんとうにこれでいいのかとか、これをどうしようというような活用、動いている部分を報告書に上げてほしいかなって、いつも思いますけどね。こういうふうに報告書が変わってほしい。そうすると、議論しやすいかなと思うんですけど、外物としては、桑名市にこういう立派な施設あります、はい、はい、はい、はい、わかりましたとなってしまっ、それで、みたいな。

【市長】

表面上で終わってしまうわけだからね、話も、そうなるよね。

【松香委員】

すごく真面目な、皆さん公務員で、よくわかるんですけど、それは公務員の仕事ではないらしいですよ、今では。未来に向けてとか。

【市長】

若い職員だと、僕もランチミーティング、昼ご飯を食べながら、2040年どうなるかという議論をしているんですよ。そうしたときに、なかなか印象的なことを言う若手がいて、私たちは採用のときに、そんな企画とかを考える人間だと採用されていないので、私たちは考えられませんって言った。すごいなと思ってですね。結構優秀な子ですけどね、そこに来ている子は。その子でもこうやって言うんだと思って。ほんとうにそういう考えを変えていかないと、おそらくほんとうに日本が減ぶだろうなと私も思いますしね。

【松香委員】

2050年とかいうのを起点にして考えないといけないとなると、すごい大変なことですよ、何でもね。それはほんとうに、まず公務員の方がしっかり常にどうやって活用して、次々こうやって回していく、それがどういうふうに転がっていくかというのが仕事というふうにならなければもたないそうです。

【市長】

まさに、文化というと、文化施設というもの、文化施設のことばかりしゃべっているみたいな、おそらくそういうことになってしまっているわけですよ。本来はスポーツ施設の話もスポーツの話をすべきだし、だから、おそらくそういうところが抜けてしまっている部分はあるかもしれないですね。

【松香委員】

この間もスポーツのときに、みんなでやったときも、では、同じスポーツでもeスポーツとか、障害者スポーツとか、高齢者スポーツとか、見るだけのスポーツとか、応援するだけのスポーツとか、いろいろ違うカテゴリーが出てきているのに対して、そこはほんの半ページも、3分の1ぐらいしかページがなくて、ずっとやってきたことを、報告は真面目に上がってくるんですけど、これ、どうするんですかってほんとうに、というところが、みんな考えるのは苦しいですけど、考えていくのが仕事なのかな。

【市長】

やっぱりハード面にいろいろ描いていくのか、農業の基盤整備に描いていくみたいなのと一緒に、実はその上でどんな農作物をつくるのが大事とか、おそらくそういうのと一緒ですけどね。そこまでのかな、考えることが大変なんだけれども、それをしないといけない時代に。

eスポーツをどう考えるって、多分、公務員はなかなか考え切れていないと思いますし。でも、ビックカメラとか行くと、もうeスポーツ専用の売り場とか、めちゃくちゃでかいですよね。そういう時代になっているよねみたいなのを、スポーツをどう捉えるかみたいなこととかですね。

ちょっとこのあたり、私たちの反省も踏まえて、反省をしながら、ちょっとしっかり。

**【松香委員】**

そうですね。報告書を、現状のとか、これまでこういうことをやりましたとか、去年こういうスポーツのところで出たんですけど、こういう市民のを何かやりましたとか、測定しますとか、いろいろあるんですけど、いいんですけど、今までやってきたことをずっと引き継ぐのはいいんですけど、それをちょっと半分にしていただいて、残りは、こういうのはこういう問題がありますとか、こういうふうに対処しようとしていますというのがあるといいかなっていつも思います。

**【市長】**

これ、次は何だかここだけは過去をずっと振り返っているだけ。これを何か。  
わかりました。ちょっとそこは変えられるように。

**【教育長】**

これだと点検表をやったりやっていますよね。その中で出てきたのが、こんな施設がありますというのはほんとうにそのスポーツを楽しむというのはどんなことなのか。だから、実際やるだけではなくて、見ることもあるんですし、それから、応援することもそうですし。それから、もっと今言われたように、eスポーツはどういう範疇に入るのというときに、担当者でしたか、困られまして、これからまた考えますというふうに言っているんですけども、その分を2040年、2050年を考えると、当然踏まえて、間違っていないので、考え方を持つことが大事かなと思いましたね。

**【松香委員】**

障害者スポーツですよ、今すごくこういったところでも、多分、パラリンピックがあったり。

**【市長】**

至るところでフィーチャーされますよね、そこにね。

**【教育長】**

その分のページ数も少なくなりますね。

**【松香委員】**

ええ、そうなんですよ。いつも、ページ数、足りないなと思っています。

**【市長】**

それはそうですね。では、例えばサッカーとか、何度も言いましたけど、例えばヴィアティンが今これだけ頑張ってくれて、天皇杯、勝って、次、2回戦だなみたいな話題って、多分全然、市役所はないですもんね、考えてみたらね。何か市役所が浮いてしまっているのかもしれないね、そういう意味で、社会と。ちょっとそういうのは大きな反省点かなと今思って、どうやって変えていけばいいかということを含めて、考えたいと思います。ありがとうございます。

では、次、安藤委員、お願いいたします。

**【安藤委員】**

5ページの最初に、本市教育の現状と課題ということで、ちょっと現状と課題が書いてもらってあるんですよね。が、わりと現状と課題がきちんと出ていない項目が結構あるかなと思うんです。書き方の問題として、例えば一番最初の1の確かな学力の定着と向上の授業改善のところ、箇条書きでもらってあるんだけど、箇条書きというのは現状とか課題、こんな現状がある、こんな現状がある、そして、こんな課題がある、こんな課題があるという、箇条でもわかるんですけど、読んでいくと、わりと前の文と後ろの文がつながっていたりとか、こうこうだからこうですって、理由になっていたりとかというところがあるので、そこをちょっと整理していただきたいなというふうに思いました。

それから、一般的な話が結構あって、例えば、6ページの下の方のいじめとところで、この辺のいじめとか、人権教育とかという、その小さな題についても、何かもうちょっと、いじめの何とかとか、根絶とかなんとかって、何かそういうようなことなのかなって思ったりもするんですが、それは置いておいて、いじめの最初の丸も、これも一般的な話だと思うので、そうではなくて、本市がどうかということなので、もうそれはなしでいいのかなというふうに思いました。

それから、5ページの一番下、就学前教育のところの書きぶりが、ちょっとよく私はわからなくて、非認知の、何て書いてあったっけ、とっても大事だと、就学前教育は。それはそうだと思うんですけど、2つ目の丸や3つ目の丸というのは、学びの連続とか接続は大切ですよみたいな話で終わっているので、だから、ほんとうに言いたいのは、学びの連続や接続が大事だってことが言いたいのかなって。それだったら、その桑名市の現状と課題が欲しいと思うんですね。

特に、今、統廃合して行って、連携をとっていくのに、子どもたちが自分が行く学校ではないところの先生を見に行ったりとか、それでも随分いいとは思いますが、その辺の課題というのものもあるのではないかなと思うので、そういった課題もちょっと就学前教育については整理していただきたいなと思いますし、それから、11ページからの基本方針のほうに入っていくのもいいですか。

**【市長】**

どうぞ。

**【安藤委員】**

その基本方針のところに、就学前教育については入っていないんですね。基本方針1、確かな学力の定着と向上ということで。なので、前段階の現状と課題で、特に課題で出てきたことというのは、やっぱり基本方針につながっていく部分、つながらないとあかんと違うかなと思います。

今すぐく力を入れているであろう9年間の教育活動って、小中連携の話も、この基本方針の1のところには出ていないので、だから、そういうこともやっぱりそこが大事だと思って、やっていこうと思っているんですね。そこは要るかなというふうに思います。

基本方針の一番最後の12ページで、これは前にも言わせてもらったかわかりませんが、一番上の視点2の子どもたちが生き生きと生活できるよう支援します。ここが、夢を持ちというところで、とても大事だと思うんです。とても大事だと思うんだけど、基本方針4が教員研修の充実と来ているので、そんなものみたいな、ちょっと軽い感じがして、言葉だけの問題かわからないけど、やっぱり研修の充実というよりは、教師自身の教職員の向上というか、困っている子どもとか、えっ、この子、朝ご飯、食べてないだろうみたいな子どもをしゅっと見られるとか、この子をどうしていこうって、考えられるとか、そういうものを磨いていく。そのために、丸印として研修を充実させますというのは、それはいいんですけど、考え方の問題とか、こっちが思っていることとして、子どもが生き生きできるように、私ら頑張っていかなあかんことですよって、いっぱい思っていないとあかんと違うかなというふうには思いますね。

そのようなことと、それから、先ほどの話の文化、スポーツとかの話にも関連するのですが、最後のほうの基本方針8というの、生涯学習の推進というのも何かひろんとしてしまって、7と8とほとんど一緒のことが書いてあるのかなみたいな。

現状と課題のところの10ページの8の生涯学習の推進のところには、結構いいことが書いてあるので、地域のまちづくりの視点から生涯学習の取り組みに生かしていけるよう支援していくとか、そういうような文章をちょっと入れたほうがいいのかなんて思ったりしました。

済みません、以上です。

**【市長】**

これ、つくった側は何か意図がありますよとか、そういうのは言います？

特に、今のご意見として受けとめて、考えていくということでもよろしいですか。

**【教育監兼学校支援課長】**

そうですね。盛り込んで、変えられるところは変えていきたいと思います。

**【市長】**

なるほど。では、ちょっとそういう形で対応していきたいと思いますので、よろしくお願いします。

では、佐藤委員、お願いいたします。

**【佐藤委員】**

基本方針に関しては、特にご意見等ございません。今回、基本方針の2が、心と体ということで分け

ていただいたところで、参考までにお伝えしたいんですけれども、私が実際やっている食育団体がありまして、そこで幼稚園児を対象にしてアンケートをとったことがありまして、どんな朝食が好きですかとか、その団体は朝食を食べようということを推奨する団体ですので、どんな朝食が好きですかというアンケートを幼稚園児にしたら、普通、例えば好きなものとかハンバーグとか、いろんな目玉焼きとかみそ汁とか出るといったんですけれども、一番多かったのがお母さんが笑顔でつくってくれたものは何でもおいしいみたいを書いてあったんです。これが、台本があるような話なんですけど、実際にほんとうにそういうアンケートがうちにはありまして、体を育成するのに大事な栄養素というのが、6大栄養素というのがあるんですけど、そこに我々の団体では、7つ目の栄養素として笑顔って入れています。

ですから、今回、体と心って分かれていますけど、普通食育って、体だけではなくて、笑顔による心の育成があるということを団体で言っていますけど、この話、いろんなところでよくお話しさせていただいていますけれども、非常に我々としても改めて衝撃を受けた。

【松香委員】

お母さんっていつも怒っているという意味ですか。

【佐藤委員】

しょうがない。朝ですからね、いろんな。

【松香委員】

朝忙しいですからね。

【佐藤委員】

朝忙しいですからね、怒っているわけではないですけど。でも、それはお母さんだけではなくて、外食関係もそうだと思うんですよね。やっぱり提供する側の笑顔というのは非常に大事だなということですね。

【松香委員】

おもしろい。

【市長】

やっぱり平日の朝は必死の形相ですよ。

【佐藤委員】

まあ、そうですね。

【市長】

みんな、とにかく時間、早くしてよみたいなことで。それがやっぱり土曜のランチとか、あまり時間に制限がないときであると、楽しくご飯もできて、お母さんにもここにしているなみたいなのもうれしいのかな。

でも、これはちょっとすごくいい話なので、私もどこかで使わせてもらいます。ありがとうございます。では、ここはしっかりと体と心の部分は重要視していただければと思います。

松岡委員、お願いします。

【松岡委員】

私もちょっとかぶっちゃったかなと思ったんですけど、食育で朝食をきちんと食べるというだけではなくて、朝食も夕食もなるべく家族全員で食べてほしい。それも笑顔で食べてほしいと言おうと思ったんですけど、かぶっちゃった。それだけで随分変わるような気がするんですね。

基本方針の2、心の育成と体の育成は分けてもらっても、両方とも大きな項目ですので、いいと思いますけれども、これは相互に関わっていてもいいですね。健やかな体の育成をすると、だから、心の育成もついてくるということになりますよね。ちょっとそれについてのお話でした。

以上です。

【市長】

ありがとうございます。

もう私なんて、夜ご飯、全然家族と食べたことがないので、もう何か、ちょっと何か。

【松岡委員】

なるべく。時間を合わせていくように。

【市長】

なるべく食べたいなと思いますけれども。

今、子ども食堂って取り組みが大分広がってきていて、結構おもしろいなと思っているのは、最初、貧困対策といいますか、ある意味、どんなお子さんでもご飯が食べられるようにというところからスタートしているんですけれども、やり始めていくと、みんな思いが変わってきて、地域の人らがみんな集まってきて、楽しくやろうとか、貧困だ何だというよりも、まずいろんなつながりができて、みんな楽しくご飯を食べようみたい、やっぱり変わっていく部分をすごく感じるんですよね。

私もそれでいいのではないかなと思って、やっぱりなかなかお父さん、お母さんと一緒に食べれない子たちもいるかもしれないですけども、確かにみんなでご飯を食べて、しゃべるみたいな、当たり前のことが非常に子どもたちの、特に体も心に対しても、非常に重要なんだろうなということを感じますね。

【松香委員】

最も必要なのが、高齢者食堂というものなんだろうと。ひとり暮らしが多過ぎるので。ほんとうに高齢者が集まって、その中に子どもが、もちろん一緒にいると、うちの地域ではそういう話をしています。高齢者食堂というのを何という名前をつけたら、格好いいか。

【市長】

高齢者食堂は来ないでしょうね。行きにくいですよ。今、老人クラブの名前を変えようといって、頑張ってるんですけども。だけど、高齢者のひとり暮らし問題は結構。

【松香委員】

すごく多くて。

【市長】

ほんとうに大きな問題ですね。主に奥様に先立たれた男性の高齢者はもう相当厳しい。食事もつけない。コミュニケーション能力も、プライドが邪魔して、地域にうまく溶け込めない。なかなか厳しいものがあるなというのを、ある事例からちょっと感じたりしていたんですけども。

【松香委員】

子どもも一緒に食べると、一番元気が出るんでしょう、ほんとうはね。

【市長】

そうなんですよ。

ああいうの、実は、防災の炊き出し訓練みたいなものだから、意外とそういうものと一緒にして、おじいちゃん、おばあちゃんと子どもで、みんなでカレーを食べるとかして、炊き出しは防災の備蓄でつくるのか、いろんなことはできるのかなと思うんですけど、ちょっと家庭とか地域でできることですね、おそらくこの学校現場だけではなく、いろんなことができると思いますので、そこにもちょっと、これは全市挙げて取り組んでいくことかなというふうに思いますので、ちょっとこれは私も総合計画をつくる際にも、ちょっと視点として考えていきたいなというふうに思います。

ほかに何か言い足らなかったぞという方がおられましたら。

では、ありがとうございました。

これで、本日の事項は終わりとなります。

事務局から連絡事項が何かありましたら、お願いいたします。

【総務部次長兼総務課長】

次回の日程でございますが、11月ごろを予定しております。改めてご連絡させていただきますので、どうぞよろしくお願いたします。

以上でございます。

【市長】

これで本日の事項は全て終わりました。これをもちまして、令和元年度第1回桑名市総合教育会議を終了いたします。どうもありがとうございました。

— 了 —